

G3ファンタジーS

<最終見解>

京都開催時は父Pサンデー系、ハイロー系が強かったレース。

2014年はクールホタルビが14番人気1着、ウインソフレが3着。

2016年はショーウェイが12番人気2着。

2017年はブルーガが1着、コーディエライトが2着、アマルフィコーストが3着。

2018年はジュランビルが6番人気3着。

2019年はレシステンシアが6番人気1着。

大型の馬が走りやすいのも古くから続く傾向。

前走馬体重460キロ以上は過去10年(京都開催時)で複勝率32%、複勝回収率162%。

父か母父サンデー系で短距離適性の高い血統馬。大型馬に注目。

本命は10 イツモニコニコ。

父はスプリント適性高いビッグアーサー。

母父はサンデー系で非根幹距離芝1400m 適性も高いダンスインザダーク。

サンデーの血も持つスプリント適性の高い馬。

前走馬体重がメンバー中で3番目に重いのも大型馬が走りやすい当レースでは有利。
使われて上昇するビッグアーサー産駒でさらなる上積みも期待。

G2京王杯 2歳 S

<最終見解>

欧州型の芝 1200m 適性高い G1 血統が走りやすいレース。

近年はディーピンパクトの血を持つ馬も走る。

父か母父ディーピンパクトは過去5年で6頭が出走。

2018年はファンタジストが1着。

2020年はロードマックスが2着、ユングヴィが3着。

2022年はオオバンブルマイが1着、スピードオブライトが3着。

高い好走率に加えて人気薄の好走も目立つ。

本命は 8 ミルテンベルク。

父モーリスは欧州型。スプリント戦のレベルが高いオセアニアでも G1 馬を出す種牡馬。
スプリント適性が問われる当レース向きの種牡馬。
母父ディーピンパクトも強調材料。

相手本線も父が欧州型ミスプロ系のロードカナロア、
母父ディーピンパクトともに当レース適性高い11番アスクワнтаイム。

全兄も当レース勝ち馬。
前走でも本命にしたように、条件があまりにもドンピシャ。

前走ほどのパフォーマンスを出す確率は下がるため、
今回はミルテンベルクを上位に取りましたが、引き続き注目。

10 タイガードラゴンも母父ディーピンパクト。

1 アグラードは父がオセアニアでも多くの名馬を出しているマキャベリアンの系統。